

第一章

序論

1.1 背景

日本は素晴らしさと輝きに関するニュースがたくさんあり、世界を沸かせた国である。第二次世界大戦での敗戦後、30年しか以内に、日本人は立ち上がって、技術の進歩を示すことができた。ほかに、日本はまさしく切腹という驚き文化を持っている。切腹または、多くの人々が、腹切と呼ばれたのは古代日本で侍に適用された式典である。切腹はルールなしで普通の自殺ではない。切腹を実行することは特別な儀式がある。さらに準備をするために時間が掛かる。

この習慣は犯罪を犯した侍の罰として、徳川の時代から行われてきた。その時代に原因切腹による死亡の増加、この習慣は禁止されている。しかし、切腹の文化が日本自身に強く装着した。だから、禁止されていても切腹がまだ行われていた。そして今までこの習慣は、日本で通常に考えられている。

侍の精神が自尊心を維持するためである。また、恥ずかしさを回避し、雇用者に献身の形態として切腹をされた根底だ。侍も敵の捕虜になるより切腹をすることにした。このように、もたらした戦争の戦略や状態に関する情報が敵の手に落ちていません。では、切腹はこれらの値の実施形態の行動になった。

1.2 問題提起

1. どんな時代に日本人が切腹を実行するか。
2. どうして日本人は切腹を実行するか。

1.3 目的

1. どんな時代に日本人が切腹を実行するのを知りたい。
2. 日本人は切腹を実行するの理由を知りたい。

第二章

本論

2.1 切腹の定義

切腹は腹を切ると言うことである。切腹と言う言葉は「切る」と「腹」から成り立っている。切腹、ほかの言葉は腹切ということである。腹切はその海外で知られている位語である。日本習慣に切腹は音読みの読書で書いた公式の発音である。腹切は訓読みの読書で書いた日常の発音である。切腹は恥ずかしさを回避し、雇用者に献身として実行する。

A.B.ミットフォード（1989）にとって、切腹は古代の日本での侍の中で習慣的な儀式は適用の自殺である。侍は名誉の死に直面するしか選択肢がない場合は、この方法が使用された。この方法は普通は自分の意志で行われるが、多くの事件は当局によってよく促された。

新渡戸稲造（2001）は切腹は法的な自殺ということだった。侍が過ちを誤って、不名誉を避けて、不名誉から彼の一族を救って、真偽と誠実さを証明するためにもした。ジャック・スワード（1986）は切腹は武士道のキーワード、日本の侍の倫理コードということだった。

上記のいくつか意味から切腹は忠誠心と勇気を実証することを目的として腹を切ることなので日本の侍によって自殺行為である。

2.2 切腹の歴史

2.2.1 古時代の切腹

日本の歴史の中で、切腹初期のレコードは播磨の国風土記という古本に書いてある。この本では、切腹が肥沃度をもたらすために犠牲の形として鹿の腹に実行したことを言われていた。日本の農家は、農家が土を湿らシカの腹

から流れた血液が、土壌の肥沃度を向上させると確信していた。そして、農家の農作物に影響すると思っていた。

上記の話から動物に切腹の理由は、今後の収穫より良いという希望の形であることを示していた。その時代に切腹は神様に捧げていた。

2.2.2 中世時代の切腹

その後の開発は、平安時代に発生した。この期間には日本の国民文化が形成される。この期間に、切腹は人間の腹を切ることで自殺の形が変わり始めた。この期間で、日本は貴族の力にあった。しかし、貴族の力は、多くの事件で国民とのサイドすることではない。貴族の政策は国民に苦しみをさせた。そして、いくつか国民が反乱を作り始めた。その国民はその後、侍と呼ばれていた。

法眼物語（法眼における障害の物語：1156）では、この期間中に発生した一つことの切腹について話していた。この切腹は源為朝によって敗北に近かったから切腹をされていた。源は剣の先で腹を切って、座った位置に留まった。しかし、まだ亡くなったので、源は背中の上部にある神経中枢を切っていた。そのように源為朝は死んだ。

完璧ではなかったが、切腹の練習は社会に知られているパターンを形成し始めていた。当時の切腹の形は切腹元のパターン、原形と呼ばれていた。

(Seward, 1968 : 33)

2.2.3 内戦時代の切腹

内戦時代は平安時代の続きである。平安時代の最後に表示された侍の立場がどんどん強くなった。貴族の力もどんどん制約されていた。一方、天皇は文化的な問題に対処するだけ制限されていた。土地を持っていた侍は地主になって、信者を持っていた。

この時代で土地所有者は、日本の支配者になるために戦った。そして、地主は彼の信者との緊密な関係を確立した。その地主は信者と信者の家族を福祉を与えた。地主は、すべてのことになった。このことから、侍に忠誠の種子が来た。その後、武士道という知られるようになっていた。

例えば、切腹をした白井である。白井は清水宗治の信者である。その時、清水宗治の軍は豊臣秀吉の軍を敗れた。勝利の印として、秀吉は清水軍のための免除を提供した。清水宗治が切腹を実行する必要があることを条件とした。その要求を聞いたあと、白井は密かに白井の部屋に来て雇用者に尋ねた。近づいたとき、白井は切腹をしていることが判明した。白井は、これは難しいことではないといった。

この時代に切腹を実行した侍は雇用者や侍の一族に忠誠を表示すのためである。だから、雇用者の敗北や戦場で殺されたら、その後、雇用者の信者は切腹を実行する。(Seward, 1968 : 28)

2.2.4 徳川時代の切腹

この時代に、日本全体は徳川家康によって結ばれた。これは 260 年ぐらい日本を統治した徳川時代の始まりである。家康が江戸の町（現在の東京）に、政府の座席を移動し、日本の政治地図を並べ替えし、土地所有権のシステムなどを完成した。

その時代にも、武士道の精神は侍によってそうしっかりと保持することになった。欲望で、侍は侍自身と侍の一族に不名誉を避けるために切腹を実行した。

切腹で増加の死、切腹が禁止になったことである。家康によると雇用者の死に従う切腹をするのは無駄なことだと言われた。そして政府は犯罪者の切腹を処罰すると脅した。その切腹の習慣は侍自身に根ざしてきたので、侍は

とにかくそれを行った。侍が切腹をしたら、家族が処罰された。しかし、侍の家族が罰として切腹を選択した。

そのことから、政府は切腹を罰として公式の状態にした。この時代にも切腹は完全になった。強化する切腹は定形と呼ばれていた。切腹の加害者は介錯人に伴った。介錯人は加害者の死を促進するために切腹の加害者の首を切ることに割り当てられていた。切腹の実行は、標準的な儀式を通して行われた。

2.2.5 明治新時代の切腹

1867年に徳川時代が崩壊した。この時代に日本は明治維新の時代に入った。西洋の影響は、日本に入国し始めた。政府は軍と民間が保有する。侍の権利が制限されていた。侍はまた、剣を運ぶことは禁止になった。切腹は公式の状態の罰から削除された。その後、侍は仕事を変更した。商人や職人や政府関係者などになった。

これ以上の侍はないが、武士道精神は自分自身で日本国民の中で生きていた。切腹の除去は、その存在には影響ではなかった。切腹はまだ壮大さの習慣を継承した国民によって行われていた。

例えば、乃木希典（1912）、侍の息子として生まれた。乃木は侍ではないが、侍の精神を継承していた。明治天皇が死んだとき、妻とっしょ切腹を実行することにした。それは過ちのための苦行である。また、天皇に忠誠心の形である。(Ranjabar P.A, 2008 : 231)

この時代では忠誠心の要素がまだ切腹の実践に記載されていた。以前の時代とは違った。この時代に切腹は正式な式典なしで行われた。ただ徳川時代の前の時代に切腹と同じである。

2.3 切腹を実行する人の話

2.3.1 源為朝 (1139-1170)

源為朝は巨大な射手として知られていた。13歳で、為は父親によって九州豊後の遠隔地域に取り除いた。3年ぐらい、源は9州を攻撃した。その国民は諦めることを強制した。18歳の時、源は法眼の戦いで戦った。20歳の時、源は悪魔の島に渡った。そして奴隷として悪魔島の住民を作る。30歳で、名前は王室界でよく知られている。

事象の法眼の反乱で、為朝は平清盛の部隊と戦った。源の宮殿は焼かれて、敗北した。為麻は逃げることを強制された。源は伊豆大島の島に疎外された。

1170年で、源と平の間に対立が続いた。平は源を攻撃するために20船の部隊を送った。源が一つ放し矢印で、1船を沈めていた。しかし、敵の力が強いから、源は、人生を終わらせることにした。

矢印を解放して、敵の船を沈めた後、源は声明を宣言した。「法眼戦争の時に、私は矢印で2人を殺した。そして今、花王の時代に、私のひとつ矢で多くの部隊を殺した。私たちと一緒に阿弥陀仏に滞在。」それから源は家に入ってきました。そして、剣の先で腹を切る。

源為朝が腹を切りで人生を終わらせるための使用された方法は勇敢な侍として有名で尊敬になっていた。源為朝の行動はほかの侍が同じことをすることと鼓舞する。(Ranjabar, 2008 : 42-46)

2.3.2 清水宗治 (1537-1582)

清水宗治は戦国時代に軍司令官だった。清水は森一族を務めた。森一族は県備中に最強一族の1だった。そして宗治は、高松城の城主です。

その時、日本を統一するために旅を続けた豊臣秀吉は清水宗治の部隊を破った。清水宗治は清水宗治は県備中を放棄することを拒否した。宗治は高松城に自分をロックされている。そして勝利の印として秀吉は清水の軍のため

免除を提供した。清水胸腹が切腹を実行する必要があることを条件とした。その要求を聞いた後、清水の信者白井と言う名前は密かに白井の部屋に来て雇用者に尋ねた。近づいたとき、白井は切腹をしていることが判明した。清水宗治に白井はこれは難しいことではないといった。

その後清水は秀吉の提供を受けた。秀吉は、清水に最後の夜食のために酒や食べ物を送った。次の日、清水は三人侍と一緒に秀吉の場所に行って来た。そして一緒に切腹を実行した。清水宗治の死は、高松城に最後の戦いだった。

2.3.3 浅野長矩 (1667-1701)

浅野長矩は赤穂城の大名だった。9歳で浅野長矩は大名に任命された。1683年、彼は他の貴族といっしょに帝国の使節の歓迎するホストになるために任命された。これは吉良義仲に会ったのは初めていた。

吉良は使節を歓迎するの適切な儀式について教えるために任命した。吉良は貪欲な人である。吉良は二人貴族をもってきた贈り物を考慮した。しかし、二人貴族をもってきた贈り物は無価値から、吉良が嫌われた。そして、吉良は冷やかし形として二人貴族を作っていた。

最初には浅野は怒りに耐えることができた。浅野はその職務と義務を遂行するために彼の従順によってこれをしなかったからである。しかし、最終には浅野は怒りに耐えることができなかった。浅野は剣を引き抜いて、吉良を殺そうとした。その時、一人兵士が戦いを見た。そして、その兵士は浅野を保持しれているので、吉良が脱出する時間があった。(Ranjabar, 2008 : 139-146)

そのことだから、浅野は投獄された。裁判所は浅野に切腹の罰を宣告した。財産や赤穂城を押収した。切腹を実行する前に、浅野は詩を作る。

「風さそふ花よりもなほ我はまた
春の名残をいかにやとせん」

浪人になっていた信者は吉良に復讐を計画する。1702年にその浪人は自宅で吉良を殺した。浪人になっていた信者47浪人と呼ばれていた。結局、47浪人は裁判所から切腹を実行するの命令を得た。47浪人は4グループに分かれて、4人大名に送られた。その後、47浪人の人命は泉岳寺に連れて行かれた。雇用者の墓の近くに埋葬された。

2.3.4 乃木希典 (1849-1912)

希典乃木は旧日本軍の大將だった。希典乃木はロシアと日本の戦争では有名な人である。乃木は指揮官としてロシアからポーツァンを引ったくっていた。

1869年に乃木は伏見護身閉鎖「伏見宮殿のガードの兵舎」に自分自身を登録した。乃木はフランススタイルの主要な力として訓練した。1871年に乃木は旧日本軍に市長に任命された。1887年に乃木は欧州の軍事戦略と戦術を学ぶためにドイツに行ってきた。1894年、日中戦争期間に、乃木は少将になった。乃木は中国の防御を貫通することが成功した。乃木は戦いのたった一日でポーツァンを占めることができた。

乃木は中將に任命して、台湾を侵略することを割り当てられた。1904年に、乃木は日露戦争に軍隊をリードして割り当てられた。その戦争は1904年8月から1905年1月まで続いた。そして、乃木は敗北を喫した。乃木は日本の敗北をもたらしたが、明治天皇はそれを維持する。そして、乃木は国民的英雄として表彰した。

戦争が終わった後、乃木はポーツァンの戦いについて明治天皇に詳しく報告した。乃木は56000軍の人命の損失のために謝罪した。その理由で乃木は切腹を実行する許可を求めた。しかし、明治天皇はそれが乃木のせいではなかったといった。その戦争はすべてのコマンドを与えていた天皇の責任

であるから。天皇がまだ生きていた限り、乃木は生きていかなければならない。

明治天皇が死んだとき、乃木にとって、それは切腹を実行する適切なタイミングである。乃木が明治天皇への忠誠の形としてした。明治天皇が埋葬して天皇の側近は宮殿を残した後、乃木は切腹を実行した。乃木が実行した切腹は信者が雇用者をフォローするのと通りの姿勢である。

乃木は妻と一緒に、切腹を実行した。乃木の死の手紙の中にポルトアーサーで補償と敗北から切腹を実行した。日本社会にとって、乃木は忠誠心と犠牲の象徴となった。(Ranjabar, 2008 : 119)

2.4 切腹の儀式

切腹の歴史的発展から見た、切腹儀式の実装は二つに分けることができる。

2.4.1 自発的な切腹儀式の実装

自発的な切腹儀式の実装は正式な式典における通常の活動なしに行われた切腹である。切腹の知識は侍の下降に教えられていた。9歳の子供が木製の剣を与えられて剣のテクニックを学ぶことになった。緊急の状況であればまた、切腹を実行する。

切腹の実装の場所を管理するの特別な規則はなかった。戦争では敗北に近かった侍は切腹を実行するために戦場の孤独な角を探している。他の武士は、敵に立ち向かっている。

2.4.2 正式な切腹儀式の実装

徳川時代に切腹の実装は、定期的な儀式にルールが持っている。その時切腹は法的な罰になった。これは侍に政府によって与えられたペナルティ金のレベルから見える。

それは、(Seward, 1968 : 18)

1. 逼塞 : 悔い改めるために亡命である。
2. 閉門 : 自宅軟禁である。
3. 蟄居 : 追放された囚人である。
4. 改易 : 一族から永久失効状態である。
5. 切腹

徳川時代に切腹の実装は一般的に夜間に行われた。そして、お寺か家の庭かプライベートを維持した家に行われた。また、裁判所によって決定されている場所である。

ジャック・スワード (1968) は 1647 年に、大阪裁判所は舘山寺で切腹を実行する被告に命じたことを書いていた。1644 年に真福寺で切腹を実行するよう命じたこともあった。将軍家綱も、増上寺で切腹を実行した。江戸にある真龍寺は徳川時代の切腹の実行場所として数回使用した。

上に寺のいくつかの名前は仏教のお寺である。お寺で行われた切腹の実装については神社が使用されていなかった。切腹を実行する人は一般的に仏教のお寺でした。これは、上人の体のために悪いことと見なされていることを神道の信仰とは無関係ではない。(Seward : 1968 : 42)

切腹の儀式の実装で健志「インスペクタセレモニー」は切腹の儀式をリードするために儀式の場所に参加した。1、2 家来「切腹を実行する人の信者」のほかにも出席することが許可される。普通は監督当局者や二から三の侍やいくつかの警備員や介錯人と介錯人のアシスタントや香を持っていた人や牧師「寺で行われている場合」や足軽「卑しい侍」その切腹の場所をクリーンアップすることやいくつかの目撃者が出席した。

一般的には切腹の儀式の場所は切腹を実行する人の社会的地位に適応された。使っている場所の広さについて 36 平方尺 (1 尺=14 インチ) である。しかし、19 世紀の初めには使っている場所の広さが 18 平方尺に減少させられて、すべての事件に適用された。切腹の実装の場所の北には修業門と呼ばれ

る門があった。切腹の実装の場所の南には涅槃門と呼ばれる門があった。その門は鳥居「神社の顔の上に門」のような形をしている。その門の高さは9フィートや広さは7フィートである。介錯人は南門から入るが、切腹を実行する人は北門に入りる。(Danandjaja, 1997 : 401)

各角にカーテンを掛けるために使用されるポールがある。畳の前にはサンボ「食事を提供するために使用されているトレイ」が置いた。サンボの上に脇差「短い刀」か タント「ナイフ」を置いていた。タントの長さは、通常30-60センチメートルである。

切腹を実行する人は白い着物や袴を着ていた。地位を持っている人のために袴「侍のジャケットのようなもの」を着ることを許可された。

切腹を実行する人が切腹の儀式的場所に修業門から入ったときに式典が開始される。そして修業門に直面して座ります。同時に、介錯人は涅槃門から入った。そして、介錯人は切腹を実行する人の後ろの左側に約4フィート座っていた。

準備ができれば、切腹を実行する人は右手でサンボの上にあるタントを取る。そのタントは左の腹で6センチメートルへその下に刺された。そして、ゆっくりと右に切り続けた。十分がいなかったら、下の腹を刺して、ゆっくりと上の方に切り続けた。その後、介錯人は切腹を実行する人の首の後ろに一回剣の振りで切断する。

介錯人は切腹を実行する人の首を切断するために選択されている。介錯人は十分な能力と剣の技術を持っている必要である。落ち着くままで職を実行することができるようだ。

介錯人に使う一般的な技術は抱き首という技術である。いくつかの事件で、介錯人は切腹を実行する人によって選択される。介錯人は首の前面に残された少しな肉で切腹を実行する人の首を切断する。ヘッドが転がないよう防ぐためだ。体に掛かって、来た観客に敬礼する。その後、カーテンが閉まる。(Ranjabar, 2008 : 86)

第三章

結論

この諸論文の背景と問題提起の結果に基づいて、結論することができるのは：

1. 日本人は切腹を実行するのは中世時代から明治維新時代まで行われた。古代時代に切腹は神様に捧げるため、鹿の腹に実行した。中世時代に切腹は人間の腹をきることに始めた。その時代の切腹は切腹もとのパターン、原形と呼ばれていた。内戦時代に切腹は雇用者に忠誠を表示するために実行した。徳川時代に切腹は公式の罰に使用された。切腹の儀式は完全になった、定形と呼ばれていた。明治維新時代に西洋の影響は日本に入国し始める、そして切腹は公式の罰から削除された。その時代に切腹の事件はまだあるが講師の儀式で実行させなかった。
2. 前書の切腹を実行する人の話に基づいて日本人が切腹を実行するの理由は自尊心を維持して、戦争で敗北や恥の過ちを償って、雇用者に、天皇に、そして国家にも献身の形と結論付けることができる。

勇気や忠誠や恥の値が切腹を実行するの根底は、そのあと日本人の特徴になった。そのことはインドネシアに適合されたら、インドネシアの社会の悪い態度は例えば、汚職は回避することができる。

このように切腹の習慣に著者の結論である。日本人にとって、立派な死ぬの方法という自殺の儀式である。

参考文献

Danandjaja, James. 1997. *Foklor Jepang : Dilihat Dari Kacamata Indonesia*. Jakarta : PT Pustaka Utama Grafiti.

Inazo Nitobe. 2001. *Bushido : The Soul of Japan*. Boston : Tuttle Publishing.

Mitford, A.B. 1978. *Tales of Old Japan*. Tokyo : Charles E. Tuttle Co.

Ranjabar, Agatha P. 2008. *Harakiri*. Yogyakarta : Pinus Book Publisher.

Seward, Jack. 1968. *Hara-Kiri : Japanese Ritual Suicide*. Tokyo : The Charles E Tuttle Company.

Japan Encyclopedia. 1993. Tokyo : Kondansha Int. Ltd.

Emila, Ligia. 1984. “*Seppuku (berkisar sekitar seppuku yang dilakukan kaum Samurai jaman Edo)*”. Tesis ini tidak dipublikasikan. Jakarta : Jurusan Sastra Jepang, Fakultas Sastra, Universitas Indonesia.

Atmanegara B, Yasser. 2008. “*Telaah Regiositas Dalam Upacara Bunuh Diri ala Jepang*”. Tesis ini tidak dipublikasikan. Jakarta : Program Studi Perbandingan Agama, Fakultas Ushuluddin dan Filsafat, Universitas Islam Negeri Syarif Hidayatullah.

追加



戦場に切腹の実行



切腹の儀式